

123 番の歌 神の秩序にいつでも従う

全てを知らないことを謙虚に認めましょう

「全能者を理解することなど、私たちには到底できません」。ヨブ 37:23 全能者を理解することなど、私たちには到底できません。神は偉大な力を持っており、ご自分の公正さと正しさを曲げることは決してありません。

ポイント：私たちは全てのことを知っているわけではありません。そのことを謙虚に認め、今知っていることをじっくり考え、エホバを信頼することが大切です。

1. エホバはどんな能力を与えてくれましたか。どうしてですか。

エホバは私たちに素晴らしい能力を与えてくれました。物事を考え、新しいことを学び、理解し、学んだことを生かしていく力です。そう造られているのはどうしてでしょうか。エホバは、私たちが「神についての知識を見つけ」、理性を働かせてエホバに仕えることを願っているからです。（格 2:1-5 わが子よ、あなたが私の言葉を受け入れ、私のおきてを大切にする(*蓄える)なら、2 知恵に耳を傾け、識別力に心を向けるなら、3 さらに、理解力を叫び求め、識別力を求めて声を上げるなら、4 銀を求めるようにそれを求め続け、隠された宝を探すように探し続けるなら、5 その時、あなたはエホバへの畏れを理解し、**神についての知識を見つける。**ロマ 12:1 そういう訳で、兄弟たち、神の思いやりに基づいて皆さんに強く勧めます。自分の体を、生きた犠牲、神に受け入れられる聖なる犠牲として差し出してください。**理性を働かせて神聖な奉仕をするのです。**）

2. (ア) 私たちはどんなことを認める必要がありますか。 (ヨブ 37:23, 24) (挿絵も参照。) (イ) そのことを認めるのが大切なのはどうしてですか。

2 私たちは学ぶ能力があるとはいえる、知っていることには限りがあります。（ヨブ 37:23, 24 全能者を理解することなど、私たちには到底できません。神は偉大な力を持っており、ご自分の公正さと正しさを曲げることは決してありません。24 それで、**人は神を畏れなければなりません。**神は、自分が賢いと思っている人に好意を示すことはありません」。を読む。）ヨブのことを考えてみてください。エホバから次々と質問され、自分には知らないことがどれほどたくさんあるかを思い知らされました。それでヨブは謙虚な気持ちになり、考え方を改めることができました。（ヨブ 42:3-6 あなたはこうおっしゃいました。『知らないのに、私の考えを覆い隠しているのは誰か』。私は話しましたが、分かっていませんでした。あまりにも素晴らしい事実を理解していました。4 こうもおっしゃいました。『どうか聞いてほしい。私が話そう。あなたに質問しよう。あなたは私に答えなさい』。5 あなたのことを耳で聞いてはいましたが、今ではあなたをこの目で見ております。6 それで、言ったことを撤回し、後悔して土と灰をかぶります。）私たちにとっても、自分は全てのことを知っているわけではないと謙虚に認めるることは大切です。そういう謙虚さがあれば、本当に知るべきことはエホバが必ず教えてくれる、と思え

るようになります。 (格 2:6 エホバご自身が知恵をえてくださるからである。神の口から知識と識別力が出る。)



ヨブのように、自分には知らないことがあると認めるのは大切。(2節を参照。)

3. この記事では何を学びますか。

3 この記事では、「私たちが①どんなことを知らないか、②知らないとどんな気持ちになることがあるかを考えます。さらに、③知らないことがあるのがどのように私たちのためになるのかも学びます。」こういうことを考えると、「全てを知っている方」エホバへの信頼が深まります。本当に知るべきことは必ず教えてくれる、と信じられるようになります。(ヨブ 37:16 雲がどのようにして浮くのか知っていますか。これらは、全てを知っている方の素晴らしい偉業です。)

終わりがいつ来るかを知らない

4. マタイ 24 章 36 節からすると私たちは何を知りませんか。

4 マタイ 24:36 その日と時刻については誰も知りません。天使たちも子も知らず、父だけが知っています。を読む。私たちは今の世界がいつ終わるのかを知りません。イエスでさえ、地球にいた時はその「日と時刻」を知りませんでした。^{*}イエスは、サタンの世界を終わらせるために先頭に立って戦うことになっています。それで、いつハルマゲドンで「征服を完了する」かを今は知っているはずです。(啓 6:2; 19:11-16) イエスは使徒たちに、何かの出来事が起きるタイミングを決める「権限」はエホバにあると教えました。そしてエホバはいつも時間を守る方です。(使徒 1:6, 7) それで、使徒たちは集合した時、イエスに尋ねた。「主よ、今イスラエルに王国を回復するのですか？」。イエスは言った。「天の父の権限で定められた時や時期について、あなたたちが知る必要はありません。) エホバはこの世界がいつ終わるかをすでに決めています。でも私たちには、終わりが来る正確なタイミングは分かりません。

5. 終わりがいつ来るかを知らないことで、どんな気持ちになるかもしれませんか。

5 イエスの言葉からすると、私たちは終わりが来るまでどれぐらい待たないといけないかも分からず、ということになります。それで、もどかしく思ったり、やる気を失ったりしてしまうかもしれません。これまで終わりを何年も待ってきた人であれば、なおさらそうです。家族や周りの人から終わりはいつ来るのかと、ばかにされることもあるでしょう。(ペテニ 3:3, 4 まずこの

ことを心に留めてください。終わりの時代には、あざける人たちがやって来てあざけり、欲望のままに行動し、こう言うでしょう。「約束されていた彼の臨在(*)はどうなっているのか。私たちの父祖が死の眠りに就いた日から何も変わっていない。全てのものは創造の始めの時と全く同じではないか」。) 正確な日付が分かつてさえいれば、もっと穏やかな気持ちで待てるし、ばかにされても耐えやすいと思うかもしれません。

6. 終わりが来るタイミングを知らないことにはどんな良い面がありますか。

6 エホバが、終わりが来る日付を知らせていないことには良い面があります。私たちは日付を知らないからこそ、エホバを心から愛し、信頼していることを証明できます。期日やタイミングを気にしてエホバに仕えているわけではありません。エホバへの信仰は終わりが来るまでの期間限定のようなものでもありません。「エホバの日」がいつ来るかを気にし過ぎるのではなく、どれほど素晴らしい将来が待っているかに目を向けるようにしましょう。そうすると、エホバを信じて待ちたい、エホバの喜ばれることを何でもしたいという気持ちになります。(ペテニ 3:11, 12 これらのものは全てこのように溶解するのですから、自分がどんな人になるべきかを考えてください。聖なる振る舞いをし、神への専心を行動に表し、12 エホバ(*)の日が来るのを(d*日の臨在を)待ち望み、それについていつも考え(*それを切望し/d 早め)ましょう。その日に天は燃えて滅び、さまざまな要素は極度の熱で溶けます。)

7. 私たちはどんなことを知っていますか。

7 知らないことにではなく、今、知っていることに目を向けることは大切です。例えば、私たちは1914年に終わりの時代が始まったことを知っています。エホバは預言を通して、終わりの時代がいつ始まるかだけでなく、それ以降世界がどんな状態になるかを教えています。私たちはその預言の実現を見ているので、「エホバの大いなる日は近い」と確信しています。(ゼパ 1:14 エホバの大いなる日は近い！それは近く、すぐに(*急速に)やって来る。エホバの日には悲痛な音がする。戦士も叫び声を上げる。)さらにエホバが今、私たちに何をしてほしいと思っているのかも知っています。できるだけ多くの人に「王国の良い知らせ」を伝えることです。(マタ 24:14 そして、王国の良い知らせは、全ての国の人々が聞けるように世界中で伝えられます。それから終わりが来ます。) エホバの証人は240ほどの国や地域で1000以上の言語でその良い知らせを伝えています。その「日と時刻」を知らなければ、熱意を持って伝道できないわけではありません。

エホバがどんなことをするか、全ては分からぬ

8. 「真の神の行い」とは何のことですか。 (伝道の書 11:5)

8 私たちは「真の神の行い」をいつも理解できるわけではありません。 (伝道の書 11:5 あなたは、妊婦の腹の中で胎児の骨に生命力(c*神の聖なる力のこと)も指すのかもしれない)がどのように働くのかを知らない。同じように、あなたは真の神の行いを知らない。神は何でも行うことができる。を読む。) 「真の神の行い」とは何のことでしょうか。エホバが望むことを実現させる

ために行なうことです。ある状況が起きるままにすることも含まれます。エホバがなぜそのように事を運んだのか、私たちには分からぬことがあります。また、エホバが私たちのために具体的に何をしてくれるのか、分からぬこともあります。（詩 37:5 あなたの道をエホバに委ね（d*の上に転がし）、神に頼れ。神があなたのために行動してくださる。）胎児の発育の過程の全貌は科学者にもまだよく分かっていません。同じように、真の神の行いを人間が正確に理解することはできません。

9. エホバが私たちを助けるために何をしてくれるかが分からぬと、どんな気持ちになるかもしませんか。

9 エホバが私たちを助けるために何をしてくれるかが分からぬと、不安になってしまうことがあります。そのせいでエホバのためにもっと頑張ろうという気になれないかもしれません。例えば、伝道者がもっと必要な場所に引っ越そうと思っても、なかなか一步踏み出せないかもしれません。あるいは、エホバが自分の頑張りを後押ししてくれていないのでは、と感じてしまうこともあります。何かの目標に向かって努力していても達成できないとそういう気持ちになってしまいます。一生懸命伝道していても思うような成果が出なかつたり、取り組んでいるプロジェクトで壁にぶつかったりするときもそうです。

10. エホバの行いを全て理解することはできないと認めると、どうなれますか。

10 エホバの行いを全て理解することはできないと認めると、もっと謙虚になれます。エホバの考え方ややり方は、私たちの想像のはるか上をいっています。（イザ 55:8, 9 エホバはこう宣言する。「私の考えはあなたたちの考えとは違ひ、あなたたちの行い（*道）は私の行いとは違う。9 天が地より高いように、私の行い（*道）はあなたたちの行いより高く、私の考えはあなたたちの考えより高い。）そのことをわきまえていると、もっとエホバを信頼し、心から頼るようになります。宣教や何かのプロジェクトで成果を上げたときも、エホバのおかげだと考えます。（詩 127:1 エホバが家を建てるのではなければ、建てる人の労働は無駄である。エホバが町を守るのでなければ、見張りの番は無駄である。コリー 3:7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させる神なのです。）自分の期待通りにいっていないように感じるときも、物事を動かしているのがエホバだと思い出すと、穏やかな気持ちでいられます。（イザ 26:12 エホバ、あなたは平和を与えてください。私たちが行ったことは皆、あなたのおかげで成し遂げられたのです。）自分にできることを精いっぱいしたら、後はエホバが何とかしてくれると信じて全てをエホバにお任せします。昔のように奇跡的な方法で導いてくれることはないとても、エホバは必要な指示を必ず与えて進むべき道を教えてくれます。（使徒 16:6-10 また、一行はフリギアとガラテア地方を通っていった。アジア州で神の言葉を語ることを聖なる力によって禁じられたからである（*禁じられた）。7 さらに、ミシアに行った時、ビチニアに入ろうと努力したが、イエスは聖なる力によってそれを許さなかつた。8 そこで一行は、ミシアを通り過ぎてトロアスに行つた。9 パウロは夜に幻を見た。マケドニアの男性が立っていて、「マケドニアへ渡ってきて私たちを助けてください」と頼むのだった。10 パウロがその幻を見てからすぐ、私たちは、彼らに良い知らせを広めるために神が私たちを招いたのだと結論して、マケドニアへ行こうとした。）

11. 私たちはエホバについてどんなことを知っていますか。

11 エホバについて知っていることをじっくり考えるのは大切です。エホバはいつも優しく、正しいことを行う賢い方です。また、私たちがエホバや兄弟姉妹のためにすることを何一つ見逃したりせず、喜んでくれます。エホバを深く愛する人たちに必ず報いてくれます。（[ヘブ 11:6](#) 信仰がなければ、神に喜ばれることはありません。神に近づく人は、神が存在し、熱心に仕えようと努める人たちに報いてくださる、ということを信じなければなりません。）

明日がどうなるかは分からぬ

12. [ヤコブ 4章 13, 14節](#)から何が学べますか。

12 [ヤコブ 4:13, 14](#) 「今日か明日、あの都市に行ってそこで1年過ごし、商売をしてもうけよう」と言う人たち、14 皆さんは自分の命が明日どうなるかも知りません。皆さんは少しの間だけ現れて消える霧だからです。を読む。私たちは、明日自分の身にどんなことが起きるかを知りません。現実として、この世界では「思いも寄らないことがいつ誰にでも起き」ます。（[伝 9:11](#) 私はこの地上で次のことも知るようになった。足の速い人がいつも競走に勝つわけでも、強い人が戦いに勝つわけでもない。また、賢い人がいつも食事にありつけるとは限らない。知的な人が裕福になるとも、知識がある人が成功するとも限らない。なぜなら、思いも寄らないことがいつ誰にでも起きるからだ。）それで、何かのプランを立てても思い通りに事が運ぶとは限りません。突然命を失ってしまい、やり遂げられないこともあります。

13. 先行きが分からぬと、どんな気持ちになることがありますか。

13 先行きが分からぬとストレスを感じ、不安になるものです。将来を心配するあまり、前向きな気持ちを失ってしまうかもしれません。突然の悲劇に襲われてつらくなったり、思いがけない変化が起きて気持ちがかき乱されたりすることがあります。物事が自分の期待していた通りにいかないと、落ち込んでがっかりしてしまいます。（[格 13:12](#) 期待がなかなか実現しないと落ち込むが、かなえられた望みは命の木である。）

14. 本当の幸せは何に懸かっていますか。（写真も参照。）

14 でも大変な時こそ、自分がエホバに仕えているのはエホバを愛しているからだということを証明できます。自分にメリットがあるからではありません。聖書によると、エホバは私たちがどんな問題にも遭わないように守ってくれるわけではありません。また、私たちにどんなことが起きるか、全てを予知するようなこともしません。私たちは、この先どうなるかが分からぬと幸せになれないわけではありません。本当の幸せは、①エホバに導いてもらい、②エホバの言う通りにすることに懸かっています。そのことをエホバはよく知っています。（[エレ 10:23](#) エホバ、私はよく知っています。人は自分の道(*生き方)を定めることができません。自分で自分の歩みを導くことができないのです。）何を決めるときもエホバに頼るなら、いわばこう言っていることになります。「もしエホバが望まれるなら、私たちは生きていて、あれやこれができるだろう」。（[ヤコ 4:15](#) それで代わりに、「もしエホバ(*)が望まれるなら、私たちは生きていて、あれやこれができるだろう」と言うべきです。）



エホバに導いてもらい、エホバの言う通りにするなら、守られる。（14-15節を参照。）

*写真や挿絵：父親と息子が緊急時に備えて非常用持ち出し袋を準備している。

15. 将来についてどんなことは分かっていますか。

15 日々何が起きるか分からぬとしても、はっきり分かっていることがあります。将来いつまでも生きられるとエホバが約束していることです。天で生きる人もいれば、地上で生きる人もいます。さらに、エホバは偽ることができず、どんなことがあっても必ず約束を守る方だと知っています。（テト 1:2 永遠の命の希望に基づいています。その希望は神がはるか昔に約束したものであり、神は偽ることができません。）エホバだけが「結末を初めから、まだ行われていないことをずっと前から予告」できます。エホバがこれまでに予告したことは全てその通りになつきました。これからもそうなります。（イザ 46:10 私は、結末を初めから、まだ行われていないことをずっと前から予告する。『私の決定（目的/意図）はその通りになり、私は自分が望むことを全て行う』と言う。）ほかにも分かっていることがあります。何があってもエホバの私たちへの愛は変わりません。（ロマ 8:35-39 誰がキリストの愛から私たちを引き離せるでしょうか。災難、苦難、迫害、飢え、裸、危険、剣であれば引き離せるでしょうか。36 確かに、「私たちはあなたのために一日中死にさらされている。ほふられる羊のように見なされた」と書かれています。37 しかし、私たちは、愛してくださった方により、これらのことがある中で完全な勝利を収めています。38 私は確信しています。死も、生も、天使も、政府も、今あるものも、これから来るものも、力も、39 高さも、深さも、ほかのどんな創造物も、主であるキリスト・イエスを通して示される神の愛から私たちを引き離すことはできません。）エホバは私たちがどんな問題にぶつかつても耐えられるよう知恵と力を与え、慰めてくれます。エホバが私たちを守り支えてくれることは間違ひありません。（エレ 17:7, 8 エホバに頼る人（強い人）、エホバを信頼する人は祝福される。8 その人は水辺に植えられた木のようになる。流れに向かって根を伸ばす木のようだ。暑さが来ても気にせず、常に葉が青々と茂る。干ばつの年にも心配せず、実を結ぶのをやめない。）

エホバが私たちのことをどれほどよく分かっているかは理解できない

16. 詩編 139 編 1-6 節によると、エホバは私たちのことをどれほどよく分かっていますか。

16 詩編 139:1-6 エホバ、あなたは私の全てを探りました。私のことを知っています。2 座るのも立つのも知っています。遠くから私の考えを知ります。3 旅するのも横になるのも見ていています（d*）

測ります)。私の全ての歩みをよく知っています。4 私がまだ言葉を口にしていないのに、エホバ、あなたはすでに私の考えをよく知っています。5 あなたは私を前からも後ろからも囲み、手を私に置きます。6 こうした知識は私の理解を超えていました(*に私はただ驚くばかりです)。あまりに高くてつかめません(*あまりに多くて計り知れません)。を読む。人間を創造したエホバは私たちのことを誰よりもよく分かっています。そして私たちをいつも見守ってくれています。私たちが何をする時も何を言う時もです。どんな気持ちでそうしたのか、本当のところ何が言いたかったのかも全部理解してくれています。ダビデが言っているように、いつも私たちに温かいまなざしを向け、力になろうとしています。宇宙の主権者エホバが優しく見守ってくれていることを考えると、ダビデと同じような気持ちになるのではないでしょうか。「こうした知識に私はただ驚くばかりです。あまりに多くて計り知れません」。(詩 139:6 こうした知識は私の理解を超えています(*に私はただ驚くばかりです)。あまりに高くてつかめません(*あまりに多くて計り知れません)脚注)

17. エホバが私たちのことをよく分かってくれているとは、なかなか思えないことがあるのはどうしてですか。

17 エホバのことをいつも温かく見守ってくれるお父さんと見るのが難しい人もいます。生い立ちや育った文化や、エホバの証人になる前の信条のためかもしれません。過去にした間違いのせいでエホバを遠くに感じてしまう人もいます。エホバはこんな自分と親しくなってくれるはずがないと思ってしまうのです。ダビデも同じような気持ちになったことがありました。(詩 38:18 私は自分の過ちを告白した。自分の罪について思い悩んだ、21 エホバ、私を見捨てないでください。神よ、遠く離れたままでいないでください。) エホバの道徳基準に合わせるために生き方を変えようと闘っている人はこう感じるかもしれません。「エホバが本当に自分のことを理解してくれているなら、どうしてありのままの自分を受け入れてくれないんだろう。どうして、ここまで大変なことを要求するんだろう」。

18. エホバは誰よりも私たちのことを分かっています。そのことを考えるとよいのはどうしてですか。(写真と挿絵も参照。)

18 エホバは私たちのことを誰よりもよく分かっています。自分で気付かないような良いところにもエホバは気付いています。私たち自身よりも私たちのことをよく知っているからです。欠点にも気付いていますが、エホバに喜ばれることをしたいと願う私たちの気持ちを分かっていて、そんな私たちのことを大切に思っています。(ロマ 7:15 私は自分の行っていることが分かりません。願っている(*したい)ことをいつも行うわけではなく、憎んでいることを行います。) エホバは私たちの成長の可能性を見ています。そう考えると、前向きな気持ちでエホバのために一生懸命頑張っていく力が湧いてきます。



今、先行きに不安を感じるとしても、エホバが約束している明るい将来について考えると、前向きになれる。(18-19 節を参考。)*写真や挿絵: 問題にぶつかっている兄弟が、新しい世界に思いをはせている。

19. エホバについてどんなこともはっきり分かっていますか。

19 エホバについてほかにも分かっていることがあります。エホバは愛です。これは疑いようのない事実です。（ヨハ一 4:8 愛さない人は、神をよく知りません。神は愛だからです。）エホバは私たちを愛していて、私たちのことを思っているからこそ、はっきりした基準を設けています。私たちがいつまでも幸せに生きることを願っています。そのために贖いという贈り物を下さいました。弱さがあって失敗してしまう私たちでも、贖いのおかげでエホバに喜ばれる生き方ができます。（ロマ 7:24, 25 私は実に惨めな人間です！こうして死につつある体から、誰が私を救ってくれるでしょうか。25 私たちの主イエス・キリストを通して救ってくださる神に感謝します！）このように、私自身、考えにおいては神の律法の奴隸ですが、体(d*肉)においては罪の律法の奴隸なのです。）忘れないでください。「神は私たちの心より大きく、全てのことを知っています」。（ヨハ一 3:19, 20 そのようにして、私たちは自分が真理から出ていることを確信し、神の前で安心(*心を納得させることができます)できます。20 心に責められることがあっても安心できるのです。神は私たちの心より大きく(c*私たち以上に私たちのことを知っているということ)、全てのことを知っているからです。）エホバは私たちの良いところも悪いところも分かった上で、私たちが正しい生き方を貫けると信じています。

20. どうすれば知らないことについて心配しないで済みますか。

20 エホバは私たちが本当に知るべきことは全て教えてくれています。大切なのは、それを謙虚に認めることです。そうすると、知らないことについてあれこれ考えて心配し過ぎたりせず、知っている大切なことに注意を集中していられます。「全てを知っている方」エホバを心から信頼していることになります。（ヨブ 36:4 事実、私の言葉は偽りではありません。全てを知っている方に教わったことだからです。）私たちには今、知らないことがたくさんあります。でも、これからもずっとエホバについて学び続けていけます。素晴らしいお父さんエホバが私たちに新しいことを教えてくれるのが本当に楽しみです。（伝 3:11 神は全てを適切な時に美しくした(*に組織した/に整えた/に配置した)。神は人に、永遠を思う心さえ与えた。それでも人は、真の神の行いを決して知り尽くす(*を始まりから終わりまで決して知ることがない。）

知らないことを謙虚に認めるのが大切なのはどうしてですか

1. 終わりがいつ来るか

- ・S04 イエスが述べたように何かの出来事が起きるタイミングを決める「権限」はエホバにあり、エホバはいつも時間を守る方で、エホバはこの世界がいつ終わるかをすでに決めておられる。でも私たちには、終わりが来る正確なタイミングは分からない。
- ・S06 私たちは日付を知らないからこそ、エホバを心から愛し、信頼していることを証明できる。期日やタイミングを気にしてエホバに仕えているわけでも、エホバへの信仰は終わりが来るまでの期間限定のようなものでもない。「エホバの日」がいつ来るかを気にし過ぎるのではなく、どれほど素晴らしい将来が待っているかに目を向けるようにする。

(1'. エホバがどんなことをするか、全ては分からぬ)

・S10 エホバの行いを全て理解することはできないと認めると、もっと謙虚になれる。エホバの考え方ややり方は、私たちの想像のはるか上をいっていることをわきまえていると、もっとエホバを信頼し、心から頼るようになる。宣教や何かのプロジェクトで成果を上げたときも、エホバのおかげだと考える。自分の期待通りにいっていないように感じるときも、物事を動かしているのがエホバだと思い出すと、穏やかな気持ちでいられる。自分にできることを精いっぱいしたら、後はエホバが何とかしてくれると信じて全てをエホバにお任せできる。必要な指示を必ず与えて進むべき道を教えてくれる。

・S11 私たちがエホバや兄弟姉妹のためにすることを何一つ見逃したりせず、喜んでくれ、必ず報いてくれる。)

2. 明日がどうなるか

・S14 大変な時こそ、自分がエホバに仕えているのはエホバを愛しているからだということを証明できる。私たちは、この先どうなるかが分からないと幸せになれないわけではない。本当の幸せは、①エホバに導いてもらい、②エホバの言う通りにすることに懸かっていて、そのことをエホバはよく知っておられる。

・S15 日々何が起きるか分からなくとも、①将来いつまでも生きられるとエホバが約束していること、②何があってもエホバの私たちへの愛は変わらないこと、③どんな問題にぶつかってもエホバが私たちを守り支えてくれること、をはっきり分かっている。

3. エホバが私たちのことをどれほどよく分かっているか

・S18 エホバは私たちのことを誰よりもよく分かっている。私たちの良いところにも欠点にも気付いていますが、エホバに喜ばれることをしたいと願う私たちの気持ちを分かっていて、そんな私たちのことを大切に思ってくださる。エホバは私たちの成長の可能性も見てくださる。

・S19 神は私たちの心より大きく、全てのことを知っていて、私たちの良いところも悪いところも分かった上で、私たちが正しい生き方を貫けると信じてくださる。

・S20 エホバは私たちが本当に知るべきことは全て教えてくれているので、知らないことについてあれこれ考えて心配し過ぎたりせず、知っている大切なことに注意を集中できる。またこれからもずっとエホバについて学び続けていける。

104 番の歌 神の聖なる力は贈り物

△ イエスは、サタンの世界を終わらせるために先頭に立って戦うことになっています。それで、いつハルマゲドンで「征服を完了する」かを今は知っているはずです。 (啓6:2; 19:11-16)

△ 写真や挿絵: 父親と息子が緊急時に備えて非常用持ち出し袋を準備している。

△ 写真や挿絵: 問題にぶつかっている兄弟が、新しい世界に思いをはせている。